

## 近世土佐派記録（三）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 京都市立芸術大学芸術資料館 公開日: 2022-11-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松尾, 芳樹 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15014/00000423">https://doi.org/10.15014/00000423</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.



## 近世土佐派記録 (三) 松尾芳樹

京都市立芸術大学芸術資料館に所蔵される「土佐派絵画資料」の中から土佐家に関わる文書の一部を翻刻し紹介する。ここでは、土佐家の画家による17世紀後期の和歌山地方の旅行記録を選んだ。記事は延宝7年(1679)の3月17日から25日まで九日間の旅程を記しており、京都を出立して、奈良、王寺、当麻、太子、三輪、初瀬、飛鳥、多武峰、吉野、宮滝、天野と旅し、高野山に登ったところで記録は終わっている。旅行を主宰したのが土佐光起であったか彼の息子光成であったかは定かでないが、訪問地には名所旧跡が多く、研修を兼ねた遊覧旅行と見ることができる。見たものを即物的に書きならべる記事は、具体性もあり詳細である。

一六三 大和旅行記 延宝7年(1679)

主要項目：土佐派、土佐光起、土佐光成、旅行記、地誌、奈良、飛鳥、吉野、高野山

---

### DOCUMENTS OF TOSA SCHOOL IN PRE-MODERN AGE (III)

YOSHIKI MATSUO

The Tosa school is one school of Yamato-e (Japanese-style painting). A part of the documents on the Tosa Family are reprinted from the collection of the reference materials on the paintings of the Tosa school owned by the Museum. Material No.163, this is an itinerary of Yamato district (in and around Nara Prefecture) written by a painter of Tosa School in the latter term of the 17th century. A 9-day journey from 17th to 25th, March, 1679 is recorded here. According to this record, the painter and his party left Kyoto and toured Nara, Oji, Taima, Taishi, Miwa, Hase, Asuka, Tonomine, Yoshino, Miyataki, Amano, and Koyasan. It cannot be determined which of Mitsuoki or his son, Mitsunari presided over the travel. They visited a lot of historic sites and cultural assets in the travel. Therefore, we can suppose this travel a sightseeing trip with training. What they saw in the travel is realistically described in concrete and detailed articles.

163 Itinerary of Yamato district 1679

Key terms: Tosa school, Mitsuoki Tosa, Mitsunari Tosa, itinerary, topography, Nara, Asuka, Yoshino, Koyasan

土佐家の絵師による大和地方遊覧の記録である。延宝七年（一六七九）の三月十七から廿五日までの日付が見える。但し廿五日分に記事はなく、記録は八日分となる。

京を立てて南行し、奈良に入り王寺を経由して当麻を訪れる。ここから一旦二上山を越えて河内の太子に立ち寄り、再び大和に戻って三輪、初瀬を訪れる。桜井に戻り、南行して飛鳥に入り、多武峰を経由してさらに南行して吉野に入る。宮滝に下り吉野川沿いに西行し、橋本から紀伊に入って慈尊院から天野を経て、高野山に上るといふ行程である。

筆記者の名は見えないが、画所預ゆかりの地である寺町を出発したところから、土佐家のものと考えて支障がない。しかし、この旅行の目的は不明で、単なる観光であったか、どこかに用事があるついでの旅程であったか分からない。折目下の横折紙十紙を右端でこより一つ綴じにした、横長半の冊子という形態で、第一紙に「上巻」とある。ただし、下巻は遺されていない。十紙目に「おわり」と記されており、高野山を訪れたところで、ひとまず旅の行程が終わったと考えることもできる。

十紙裏には判読不能の雑記が散らされ、その傍らに風景写生が描かれている。雑記は、本文と対照すると、注として後に書き加えられた記事と重複するものがあり、旅行中に書きこまれた事柄をメモしていたものである。風景写生は最後の訪問地高野山内のものかもしれない。

年記から旅を主宰した人物を比定するなら、土佐光起と土佐光成のどちらか、あるいは両者とするほかない。この時光起は63才とかなり高齢であり、精力的な旅程からみれば、34才の壮年期にあった光成の名が第一にあるところである。しかしながら、光起は従五位下左近衛將監として土佐家の中核的存在であり、画家としてもいまだ盛期にある。その一方で光成といえは、未だ官位を持たぬ身であった。

かなり険しい道も辿る旅程ではあるが、当時の一般的な旅の姿を考えれば、高齢の光起に困難と断ずる理由はない。しかし、記録中に滝飛とよばれる溪流での水泳遊戯（廿二日）を楽しんでいるところを見れば、一行の旅が高齢者の趣味によってのみ統制されていたのでもない様子が感じられる。従って、光起参加についての判断は保留せざるをえないが、光成の存在は想定されてよいだろう。また光成の子、すなわち光起の孫光祐についてはまだ5才にすぎず、一行に加えられていたか知るすべがない。

旅程をみれば連日移動を続けており、遊覧とはいえ決して楽な日程ではない。光起が加わっていたとするなら馬などの使用も少なくなかったであろう。訪問地選択の基準が名所旧跡の存在にあり、史跡と文化財を尋ねることが目的なのは明らかだから、旅程に限って言えば、研修旅行ということになる。この資料の価値は、17世紀後期の画家の、歴史に対する見聞や趣味の対象がそのままに記録されているところにある。

旅の記録としては、目に止った事物を羅列するばかりの即物的なもので、読み物としての面白さには欠けるが、それだけに具体的な現実感がある。この旅行の百年ばかり後に刊行された『大和名所図会』（寛政三年（一七九一）序）などに示された絵図と対照すると、かなり具体的に一行の行動がイメージできるのは、その記事の正確さを裏付けてくれる。

まだ桜の残る、旅には絶好の時期でもあり、旅程は順調である。訪問した場所に対して、感想や評価を下していない点に意外な印象があるが、これだけの史跡をどのように選択し、またそこに何をしようとしたのか当時の画家の教養を知るうえでも興味深い。名刹での特別拝観料や滝飛などの料金を記す感覚や、社寺本尊にこだわる神経に、記録者の顔が垣間見える。

大和旅行記旅程 延宝七年(一六七九) 三月

\*旅行記に見える主な地名・見学所を記事に従って整理した。表記は通称も含めて、適宜分りやすいものにした。

\*実際に立ち寄り、見聞したものを基本として、へは伝聞、《》は備考とした。また原本と表記が著しく異なるものは、( ) によって原本該当箇所との対照の手がかりを示した。また、比定が困難なもの、判断の根拠が薄弱なものに?を加えた。

\*見学所に地名、社寺名を結び付けて表示すべきものは(地名)、(社寺名)によって、その関わりを明確にした。  
\*宿泊地は記されたもの以外、旅程から推定したものである。

【十七日】

京都→藤森宮→伏見/観月橋(豊後橋)→長池→玉水/玉井?(弘法大師井戸)→

木津/《舟渡し》→

安福寺?→哀堂?(薬師堂)→

奈良坂→

般若寺→文殊堂→観音堂→

東大寺→伽藍→大仏殿→二王門→金銅燈籠→念仏堂(地藏堂)→俊乗堂→

鐘楼堂→二月堂→三月堂→四月堂→

春日大社→春日若宮社→熊野権現社?→奥の院?→

興福寺→本堂→伽藍→南円堂(なんねん堂)→猿沢池/采女祠→

《奈良 泊》

【十八日】

西ノ京/薬師寺→仏足石→文殊堂→五重塔→休岡八幡宮→

郡山(二階堂)→小泉→

法隆寺→舍利堂《開帳》→夢殿(夢見堂)→伝法堂?(千手観音堂)→聖

霊堂(太子堂)→西円堂(薬師堂)→伽藍→二王門→

竜田神社→竜田川→三室山(竜田山)→

王寺/達磨寺→薬師石→春日石→問答石(太子石、達磨石)→一夜竹?

(二股竹)→九重石塔(達磨石塔)→中興記幢(八角石塔)→

《王寺 泊》

【十九日】

当麻/石光寺(染堂)→染殿井→糸掛桜→

当麻寺→曼荼羅《開帳》→往生院(奥院)《開帳》→紫雲院(中將

姫)→来迎松?→

二上山/葛木二上神社(葛木堂)→屏風岩→岩屋峠→

岩屋→磨崖→三重石塔→

叡福寺(上太子)→九所権現社(春日、天照大神、八幡)→聖徳太子墓→

大乘木(輿の棒)→聖霊院(聖徳太子像)→上御殿(聖徳太子像)→

本堂?(积迦堂)→多宝塔(二重塔)→鐘楼堂→骨堂→

当麻→高田→曾我(今井)→八木→山之坊→面堂→横おち→戒重→二王

門?→桜井→

三輪/大神神社→袋石→大黒石→御手洗橋→二本杉→大日堂→衣掛杉→切

掛杉→楼門→(玄賓庵)→

外山?(とびやす)→慈恩寺→脇本→黒崎→出雲→

《初瀬 泊》

【廿日】

初瀬/長谷寺→二王門→回廊(楼閣)→蔵王堂→観音堂→愛染明王堂→閻

魔堂→不動堂→大閻魔堂→本長谷寺(本朝国寺)→三重塔→

天神山?(愛宕山)→(与喜天満神社)→

桜井→天香具山→



安倍文殊院 〓 本堂 〓 鐘樓堂 〓 葉師堂 〓 文殊院西古墳 (岩屋) 〓 関伽井古墳

(岩屋) 〓 白山堂 (鎮守) 〓 安倍晴明屋敷跡 〓

小原神社 (大原大明神) 〓 藤原鎌足誕生地 〓

飛鳥川 〓 飛鳥 〓

岡 〓 治田神社 (八幡社) 〓

岡寺 〓 観音堂 〓 開山堂 (義淵堂) 〓 鐘樓堂 〓 二王門 〓

橘寺 〓 太子堂 〓 五重塔 〓 心礎 〓 黒の駒 (駒の石塔) 〓 聖徳太子御詠歌 〓

石舞台古墳 (岩の洞) 〓 気都和既神社 (をこが宮) 〓

紫蓋寺 〓 増賀上人墓 〓

多武峰 〓 談山神社 (太職冠宮) 〓 護国院 〓 十三重塔 〓 講堂 〓 鐘樓堂 〓 如法

堂 (本願堂) 〓 灌頂堂 (願所堂) 〓 宝蔵 〓

〓 《多武峰 泊》 〓

### 【廿一日】

多武峰 〓 飯盛塚 〓 竜門岳 〓 西谷 〓 山口? (つきのき) 〓 《茶屋》 〓 竜門

滝 〓 吉野川 〓 《桜の渡し》 〓 飯貝 〓 丹治 〓 吉野 〓 四手掛社 〓

〓 《吉野 泊》 〓

### 【廿二日】

吉野山 〓 銅鳥居 〓

金峰山寺 〓 二王門 〓 蔵王権現堂 〓 天神社 〓 阿弥陀堂 〓 不動堂 〓

吉水神社 (吉水院) 〓 聖天山 〓 駒の足跡 〓

左槐神社 〓

勝手神社 (静御前舞所) 〓 神楽堂 〓 拜殿 《千部読経》 〓 袖振山 〓

竹林院 〓

如意輪寺 〓 観音堂 〓 阿弥陀堂 〓

後醍醐天皇陵 〓 御幸の芝明神 (夢違観音堂) 〓 大將軍神社 (大じゃう

こん宮) 〓 花矢倉 〓

世尊寺 〓 釈迦三尊 〓 太子堂 〓 鐘樓堂 〓

八王子神 〓

吉野水分神社 (子守大明神) 〓 楼門 〓 伽藍堂 〓

高算御影堂 〓 牛頭天王社 〓 高城城跡 (忠信城跡) 〓 中院谷 〓 金峯神社

(金生大明神) 〓 蹴拔塔 〓 遙谷 〓

安禅寺 (あいせん寺) 〓 本堂 〓 多宝塔 (二重塔) 〓 奥院 〓

西行庵 〓 苔清水 (西行滝) 〓

蜻蛉滝 (清明滝) 〓 大滝 (西河滝) 〓 《滝飛》 〓 音無川 〓 檜尾山 (仏か峰)

〓 檜尾 〓 宮滝 〓 屏風石 《滝飛》 〓

〓 《上市 泊》 〓

### 【廿三日】

上市 〓 新野 〓 土田 〓 檜垣本 〓 下泷 〓 下市、佐名伝 〓 金岡筆捨岩 〓 東阿田

〓 西阿田 〓 宇野峠 〓 宇野 〓 越替? (こへがい) 〓 小山 〓 五条 〓 二見 (寄

足) 〓 生蓮寺 (地藏堂) 〓 犬飼 〓 大師堂 〓 真土 《膏藥売》 〓 隅田? (濟

田) 〓 不動石 〓 兵庫 〓 暗峠 《曼荼羅売》 〓 河瀬 〓 妻 〓 橋本 〓 《舟渡し》

〓 《三軒茶屋》 〓 清水 〓 大師井戸 〓 永田 〓 学文路 〓

〓 《慈尊院 泊》 〓

### 【廿四日】

慈尊院 〓 慈尊院 〓 訶梨帝母宮 〓 五輪塔 〓 御廟 (弥勒堂) 〓 拜堂 《開帳》 〓

多宝塔 〓 鐘樓堂 〓

丹生官省符神社 (高野大明神) 〓 鐘樓堂 〓 舞台 〓 神輿堂 〓 本宮 〓 拜殿

〓 本地堂 〓

勝利寺 〓 観音堂 〓 子安地藏堂 〓

天野 〓 丹生都比売神社 〓 下鳥居 〓 輪橋 (そり橋) 〓 中鳥居 〓 楼門 〓 上鳥居

〓 行者堂 〓 長床 〓 山王堂 〓 本宮 〓 恵比寿社 〓 若宮 (行勝上人宮)

〓 一切経蔵 〓 光明真言石塔 〓 御影堂 (大師堂) 〓 多宝塔 (二重

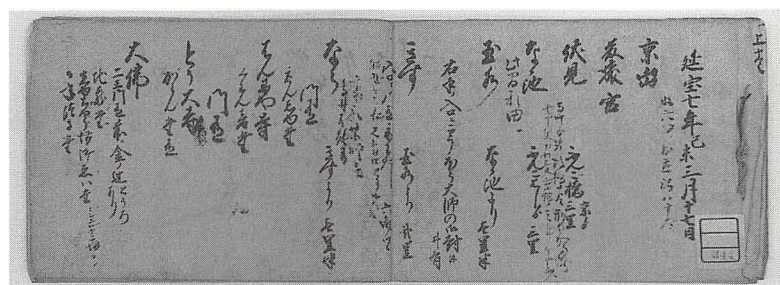
塔) ↓神輿堂 ↓大日堂? ↓不動堂 ↓荒神宮 ↓  
 大師杖跡 ↓二つ鳥居 ↓袈裟掛石 ↓搦石 ↓押上石 ↓七色木 ↓鏡石 ↓  
 高野山 / 大門 ↓

壇上伽藍 || 中門 ↓金堂 ↓六角経蔵 ↓四社明神 (天野高野大明神) ↓西  
 塔 ↓孔雀堂 ↓釈迦堂 ↓御影堂 ↓三鈷松 ↓宝蔵 ↓鐘楼堂 ↓根本大塔  
 ↓愛染明王堂 ↓大会堂 (夏とう) ↓三昧堂 ↓東塔? (西塔) ↓  
 千本楨 ↓五大尊堂? (不動堂) ↓円通寺 (別処寺) ↓  
 奥の院 || 一橋 ↓二橋 ↓無妙橋 ↓弥勒石 ↓弘法大師廟所 ↓燈籠堂 ↓骨堂  
 ↓経堂 ↓高野山 ↓転軸山 ↓御供堂 ↓大黒堂 ↓不動堂 ↓敦盛石塔 ↓  
 熊谷石塔 ↓大名石塔 ↓

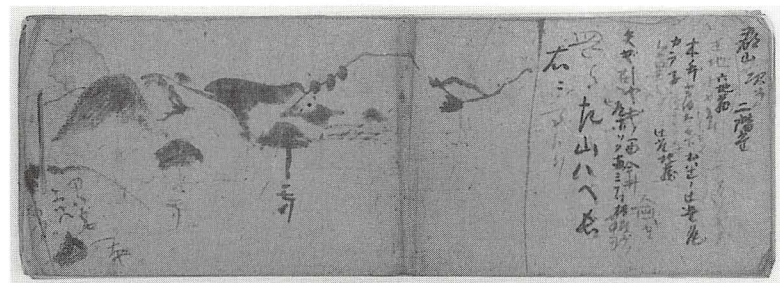
↓ 《高野山湯屋谷 泊》

【廿五日】  
 《記事なし》

〈参考図〉



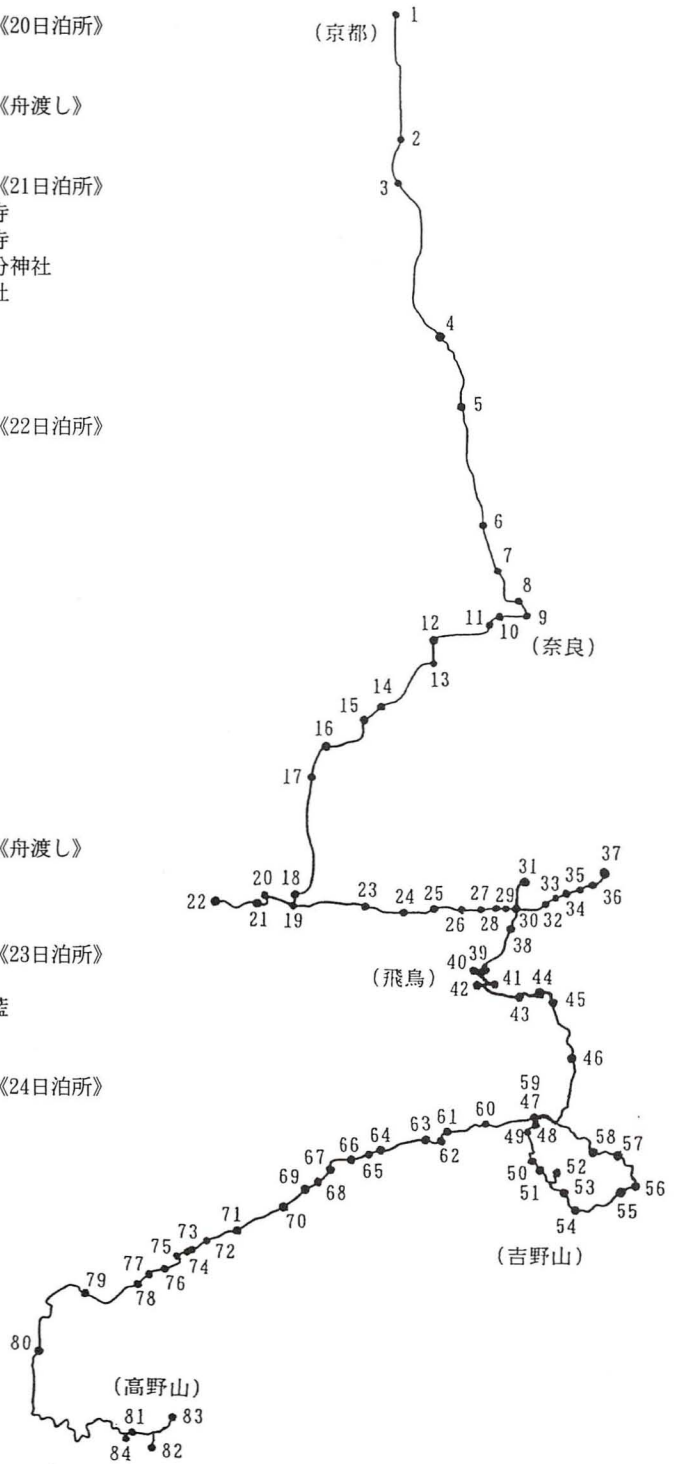
第一紙表



第十紙裏

延宝七年土佐家絵師大和旅行行程図

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 1. 京都          | 44. 多武峰 《20日泊所》 |
| 2. 藤森宮         | 45. 飯盛塚         |
| 3. 伏見          | 46. 西谷          |
| 4. 長池          | 47. 上市 《舟渡し》    |
| 5. 玉水          | 48. 飯貝          |
| 6. 木津 《舟渡し》    | 49. 丹治          |
| 7. 奈良坂         | 50. 吉野山 《21日泊所》 |
| 8. 東大寺         | 51. 金峰山寺        |
| 9. 春日大社        | 52. 如意輪寺        |
| 10. 興福寺        | 53. 吉野水分神社      |
| 11. 奈良 《17日泊所》 | 54. 金峯神社        |
| 12. 西ノ京        | 55. 蜻蛉滝         |
| 13. 郡山         | 56. 大滝          |
| 14. 小泉         | 57. 桜尾          |
| 15. 法隆寺        | 58. 宮滝          |
| 16. 竜田神社       | 59. 上市 《22日泊所》  |
| 17. 王子 《18日泊所》 | 60. 新野          |
| 18. 石光寺        | 61. 土田          |
| 19. 当麻寺        | 62. 檜垣本         |
| 20. 二上山        | 63. 下淵          |
| 21. 岩屋峠        | 64. 東阿田         |
| 22. 叡福寺        | 65. 西阿田         |
| 23. 高田         | 66. 宇野峠         |
| 24. 曾我         | 67. 宇野          |
| 25. 八木         | 68. 小山          |
| 26. 山之坊        | 69. 五条          |
| 27. 面堂         | 70. 犬飼          |
| 28. 横おち        | 71. 真土          |
| 29. 戒重         | 72. 兵庫瀬         |
| 30. 桜井         | 73. 河瀬          |
| 31. 三輪         | 74. 妻           |
| 32. 慈恩寺        | 75. 橋本 《舟渡し》    |
| 33. 脇本         | 76. 清水          |
| 34. 黒崎         | 77. 永田          |
| 35. 出雲         | 78. 学文路         |
| 36. 初瀬 《19日泊所》 | 79. 慈尊院 《23日泊所》 |
| 37. 長谷寺        | 80. 天野          |
| 38. 安倍文殊院      | 81. 壇上伽藍        |
| 39. 小原         | 82. 円通寺         |
| 40. 飛鳥         | 83. 奥の院         |
| 41. 岡          | 84. 湯屋谷 《24日泊所》 |
| 42. 橘寺         |                 |
| 43. 気都和既神社     |                 |



一 上巻

延宝七年己未三月十七日、

明六ツ、出立行ハテズ、

京出、

藤森宮、

伏見、 ぶんご橋 京より  
二里、

寺町より豊後橋まで刑部かひ守、

七十文カワシ候、京橋ノ先トテケテラ、

なか池、 ぶんこはしより三里、

此間新田、

玉水、 なか池より壹里半、

右手ノ入口ニこうほう大師の御封候井有、

きす、 玉水より式里、

入口ニ門有、舟わたし、六文ツ、

細野と云仁、石トウロ見事ナル有、

康永薬師堂、

鳥井有、能有、

なら、 きすより壹里半、

門有、

もんしゆ堂、

はんにや寺、

くわん音堂、

門有、

とう大寺、

がらん、堂有、

大佛、

二王門有、前ニ金ノ辻とらあり、

地藏堂、

しゆぢやう坊御えい堂、 シュンテウ坊か、

かねつき堂、

（第一紙表）

二月、三月、四月、三ツ、

なかるうか、きさ橋、よき有、

かすか宮、

わかみや、

くまのこんけん、

藤の鳥井有、

をくの院、ひよみ、

御身躰 かくうそう  
ふどう、

かうふく寺、

かろう寺、

本堂しやか、七堂からん也、

なんねん堂、

さるさわの池、 きわにうねめの  
みやあり、

十八日

西の京、やくし寺、

はくさい國より渡り給ふ也、

堂の右手ニへつそくの石あしあと有、

もん字も有之、

文殊堂、

五重のとう有、

門のそとに八まんのみや、鳥井、ろうもん有、

門のそとに八まんのみや、鳥井、ろうもん有、



郡山城下、

△二階堂、春日明神ノ鳥井道バタ左手ニ有、  
不動ヲ立木ノ中ニ、

小いつみ村、  
ほうりう寺、 西ノ京より三里、

しやり堂、昼日中ニ御開帳、  
前ニ夢見の堂、

後ニ千手くわん音堂、

「(第一紙裏)

門より外、

太子堂、四十二才の御すかた、

薬師堂、

ミねの薬師、六角の堂也、

此所七堂がらん也、

二王門、 はくさい國より渡り給ふ  
土佛ノ二王有、

たつたの宮、

鳥井、 はいてん、 たつた川、

はしあり、 たつた山、

だるま寺、

堂に 右ハたるま  
左ハ太子、

薬師石、 ふたまたた竹、

かすか石、 たるまの石とうくずれて有、

太子石、 堂の後ニ八角の石とう有、

だるま石、

十九日

たへま寺、 ほうりう寺より三里半、

七堂がらん、

そめてう、地蔵也、  
そめとの井、

いとかけの桜、  
まんだら、

ミかけ板に御うつり被成候、  
かいちやう、 錢百文、

をくの院、法然上人、

石のかかみ有、かいちやう、 錢百文、  
中將ひめ、 十七才にて

御くしおろし

給ふてら、

同、 廿九才ニ而御をうちやう

被成候ところ、

来光「迎」松、

此松のね南都の方へさし不申候、

二条かだけ、 上ノ太子ハたへまより  
壺里半、さかみちなり、

かつらき堂、 とうろうと

つりかねと有、

此道谷ニむかうがたきあり、  
びやうふ岩有、

此所ニ而ミね入ニおこない有、

いわ屋とうけ、

此所ニ中將ひめはすの糸を扁被成候、  
岩屋、まがいのあともあり、

又三重の石とう、下よりのへ付の石也、

清水有、

「(第二紙表)

上の太子、入口二

かすか明神ミヤ

てんせう太神ミヤ

八まん太ほさつミヤ、

まへ二はいてん、鳥井、玉がき有、

太子御ひやう所、山也、

ほらのうちにぢやうとうろうあり、

ほらの両わきに御こしのほう、木

三かいほと枝葉さかへて有、

ほらの口ニわき門有、ほらの前ろうか有、

山のまわり石とうにて玉かき、太子の

ほん字ほり付て有、山のくるり式町

枉地二八十六ヶ國の石をしき、ほらの

前ろうかの次ニおこなひ堂有、

太子、三十五才の御すかた、堂、

廿一五才の御すかた、堂、

十六才の御すかた、堂、

七才の御すかた、堂、

二才の御すかた、堂、

しやか堂、

二重のたう、

しゆるう堂、

こつ堂、

惣もん、是よりたへまたてり、

たかた村、たへまより壱里、

そが村、たかたより半里、

右二今井と云在所あり、

「(第二紙裏)

屋き村、そかより半里、

山のぼ村、やきより半里、

めんど村、山のほ「方」より半里、

よこ打村、めんとより半里、

かいじゆ村、よこ打より十五町程、

仁王門、

さくらい村、やきより

三輪、

鳥井有、

袋石有、

大黒石有、

みたらし橋、

ふたもとの杉、

大日堂有、

とびやす村、

ちおんぢ村、

わき本村、

くろざき村、

いづも村、

廿日

はせの町屋、

くわん音堂、

二王門有、

八町程あり、

巳午向、

「(第三紙表)

楼閣三町余有、三まわり也、  
中程二ざをう堂、

くわん音、

右にてんせう大神、

左二かすか明神、

わき立三十三神、

堂の右手のうちにちせう、

堂の左二くまのこんけん、

ミヤ、はいてん、

つきに、あいせんめうおう堂、

わき立しやう太子、

堂の右手よりくるりに、

ゑんま堂、 ちせう大師ノ御作、

ふとう堂、 をのゝたか村ノ御作、

わき立、 こんから、 せいたか、

大ゑんま堂、

わき立、 くせう神、 四神、

本朝国寺、 せんたいのしやか、 くわん音、

す「し」の左の脇に地藏、

三重のたう、

五字のによ来、 わき立四天王、

#### 四

しよけへや有、 本堂の向に

あたこ山、 町のみ付に鳥井有、 天神のミヤ也、

桜井よりたうのミねへ行道有、

右手二あまのかく山有、

あへ文殊、 右にてんせう太神、

春日大明神、

左二住吉大明神、

八幡大菩薩、

中二文しゆ、

左手二しゆろう堂、 右手二葉師堂、

參ハ右手二いわや有、 おく行六七間程、

口ハゞたかさ壺間ハゞ、 壺間半程上ハ

太石三ツにて両わきは岩也、 おくに

石乃ふとう有、

又右へ行道有、 おくに堂あり、

いわや有、 是ハおくへ五六間程、

口のたかさ同事、 内ふとう有、

いわやノうちにし水有、 又右

手山のうへにちんしゆ有、 下二はい

てん有、 山のはしにもあき

堂有、 此所より八町程わきに

清明うへ置申候から木有、 門

前右手あへの清明屋敷

のあと、 石すへ三所二有、

大原大明神、 大しよくかんの御袋也、

ミヤの左手二八まんかすか小ミヤ有、

一町程寺の右手やふのうちに

ほこら神木有、 大しよくかん

御たん生所也、

あすか川、

あすか村、

をかの八まん、

まへに鳥井、 はいてん、

をか村、

「(第四紙表)

「(第三紙裏)

おかのくわん音堂、

南むき、堂の左手きゑんほつそ

ちやうだうあり、しゅうろう堂、二王門有、

たちはな寺、

たち花の京のとき太子の

御屋敷のあと也、堂ハせうとく

太子、入口ニなん門の跡有、同所ニ

太子御うへ置被成候松と云昔

の松有、堂のまへに薬師堂の

あと、石すへ有、又五重のとう

のあと、石すへ有、堂の右手

きさ橋の上二ひのめい石有、

太子御たん生被成候所也、同

つき山のすそに太子てんぢやう

被成候時御のり被成候かいのくろ

こま石とう、地藏と馬とほり

つけて有、

又うすすみの桜の木有、かれ申候、

又石ニ太子の御ゑいか、

佛出はなふる里のあるなかテ

とおき國とは何を云らん、

又石ニしやかのごきにやくゑん

にや給候ひつ一けんしとうひけつ、

ほたいしんこ、ほたいしん、

此山を佛す山と云也、

たち花寺よりとうのミねへ行道、

五

右手はたけ中ニ大石ニていわの

「(第四紙裏)

ほらあり、其うち拾帖しき計、をか  
道筋よりたうのミねへ行道上り坂也、  
をこかミヤ、

もり有、是より上へ坂十二町なん所、

坂七まかり、上二町や有、さかの中程より

少上ニ左手十町計おくニそわか上人

御ひやう所有、

太「し」よくわん宮、

まへニこくゑんと申拝殿、是ニ而ろんぎ、

御座両わきすきろうか、

ミヤの右手十三のとう、ひはたふき、

御しんたいもんしゆ、とうの下ニ

玉こめて有、同右手かう堂、

同右手しゅうろう堂、同

右手本願寺、

同右手願所堂、同右手小宮式ツ、

同右手たからくら、七町程おくに

べんさい天のミヤ式ツあり、ミヤの

右手ろう門のそとにあんらん

しゆ「ト」申から木の神木有、

同左手山王のミヤ、

同左手こおうミヤ、同左手小だき有、

同左手たか「ラ」くら有、同左手ちくたい有、

同左手ぢんぢよのミヤ所のろんじゆ也、

はいてん有、こくうてん有、きさ橋

下り向の山ノ上ニくわうじんのミヤあり、

本道筋ニ大石あり、是ハこほうてん

より此上へとひおり被成候石也、



あしかた是あり、つきに石とうあり、  
廿一日

たう乃ミね門前、下馬、

いもりつか村、是より五拾町、

りうもん、西谷村、

つきの木、たうのミねより  
二リ半ちや有、

此所二りうもんのたき、半里程おく二有、

よしの川、舟渡し式文、

いひが村、

たんぢ村、

しめかけたうけ、

よしの、入口也、

しでかけのミや道二有、坂ノ上ニ龜石有、

廿二日

吉野、一 つきの木ノちや屋より二里、

くれ松道ばた二有、

かねの鳥井、二王門、

蔵王こんけん堂、

南むき、しんたいしやか、わき立

右ハみろく、左ハ千手くわんおん、

堂の右手ニ天神のミヤ、鳥井有、

又つきにあみた堂、あんなミの

御作、わき立右せいし、同左くわん音

堂の左手ニあき堂有、

是より南へ下向いたし、きさはし

下ニ右手ニふとう堂、左手にゑびす

大こくミヤ、右手ニ千たいちそう堂、

「(第五紙表)

六

町屋右手ニいなりのミヤ、左手ニ

町ノ上ニしづか山、左手ニ

よし水乃院、

此所ニほうくわんとの御作り被成候

庵有、門乃左手ニせうてん山、

ほうくわん殿馬ノ足あとあり、

町乃右手

「(第五紙裏)

さらぎ大明神、

ろうもんのうちに、右ニゑひす、左ニ大こく、

ミヤ御しんたい、もんしゆ、ひしやもん、

ミヤのむかいにかくら堂、ミヤの左に

はいてん、此所ニ而三月十三日より廿二日迄

毎年千ふ経御座候、此ミヤのまへニ而

しつか御せん舞をまひ候所、

そてふり山、

ちくりん院、庭あり、

によいりん寺、

町より十町程左手山のなか也、

によいくわん音堂、左のわ「き」にあみた、

堂の後、山の上一町程おく二ごだい

ご天皇御はか所、前に鳥井、

玉かき、杉はやし、ちゝさき石塔有、

てん王橋、

夢ちかいのくわん音堂、大ぢやう

こんのミヤ、

へんけいふせき矢い申候所の紫

のさくら、右手ニ

わしの尾山せそん寺、

しやか日本さいしよ佛、かすかの作、

わき立右ニかせう左ニあなん、同

太子堂左手ノわきにゑんのき

やうじや、同そとにほら乃

行者おひとり、地そう、天照大神、

春日大明神、ゑひす、みだ、しやか、

つりかね堂有、

八王ち明神、

かき始の神也、鳥居あり、

こもり大明神、ちそう、

ミた、うしろ向、

観音、

女良神也、鳥居有、

籠門あり、

右わきニ大ミねの宮、

左わきニ薬師の宮、

前ニからん堂あり、

かうざん上人堂、

右手ニ少山道あり、坂ノ上ニ堂有、

きをんこす天王、

右手鳥居あり、小宮なり、

忠信城の跡、

左手ニ、山ノ上ニあり、

ちうめん谷、

此谷の廿町程下ニ行人住

被申候庵のあとあり、

ことう堂、

— (第六紙表)

七

右手小宮なり、鳥井あり、

忠信そう腹切申候所、此所をつつし

がをかと申候、

金生大明神、こしんたいハこんたい

ざうかの大日也、

けぬきのとう、こしんたいハたいそう

かいの大日也、

天台大師御作也、とうハ一重計也、

此とうの前をはるかの谷と申候、

むかいニ丸山御座候、ちうめん谷と申て

忠信落申候谷なり、

右手ニ弁才天宮、鳥居あり、

左手ニあき堂有、

あいせん寺、御しんたいさおふ、

しやくなきの木ニてつくり

申候と申佛也、

二重とうあり、あいせん明王、

おくの院、

小宮六ツあり、それよりすこしおくに

西行法師庵の跡あり、少堂有、

同西行谷、同西行の瀧あり、

清明の瀧、儀全坊、肥後ノ

人也、

弁才天宮、鳥居あり、下ニ寺有、

瀧飛、百文宛ニ而仕候、

にしつかうのたき、西行、ニシカウノ

タキト云

事ニ而  
如此書由、

— (第六紙裏)

平龍へ瀧かゝなり、瀧上二よろいかけ松有、  
かづらき山、

おとなし川、

佛か峯、おとなし川の上なか右手の  
坂なり、

かしほ村、

ミヤたき、

平瀧なり、柴橋あり、橋の道途ニ  
岩あなあり、はうくわん馬やと申候、

ひやうふ石、

此上よりたきとひ仕候、百文宛、

廿三日

かみいち村、

新野村、

土田村、

ひがい本村、

下ぶち村、

川向ニ、下いち村  
さなて村、

左手川ニ、かなをか筆すて  
岩あり、

東あだ村、

西あだ村、

う野村、

こへがい村、

小山村、

五条村、吉野より五里  
かみいちより四り、

一 (第七紙表)

寄足村

右手にちそう堂あり、はらもち

いぬかい村、

左手ニこうほう大し堂有、

高や大明神宮もあり、

まつち村、

此所ニてかうやく賣申候、

濟田村、

橋有、右手ニ橋の下ニふとう石有、名所也、

ひやうご村、

くらかりたうげ、此所ニ而まんなら賣申候、

かうぜ村、

つま村、

川あり、舟渡シ

橋本村、ちや屋あり、紀州様、

清水村、

此所こうほう大師御ふうじ

被成候并有、

永田村、

かむ路村、

廿四日

じそん院村、

ぢそん院、門有、

かりていも小宮、門入る右手ニあり、

とうしん太夫、夫婦の石塔、

道両方ニあり

一 (第七紙裏)

ミろく堂、 ころほう大師、

御袋御ひやう所、

堂南むき、

前二拝殿有、

御袋御ゑい、

大師六十一才御ゑい、

中將姫まんなら、

ふつき式つ、たいとうより渡り申候、

すつ二而御袋様こつこめて有、

五こう、 中二ふつしやり籠有、

れい

御袋御判、 何義かいちやう百文、

とう、 大日、

しゆるう堂、

高野大明神、 鳥井 正一位勲八等 かく有、

丹生七社大神

右二しゆるう堂、 同ぶたい、

同ミこし堂、

本宮五社、 宮 八幡大菩薩

天照大神

春日大明神、

たんしやう宮、

かう野大明神宮、

越前けいの宮、

いつく嶋弁才天宮、

宮ノ両脇二、 右二御せんの宮、

左二同、

前二拝殿、

左二とう、 大日也、

しゆるう堂後坂ノ上ニくわん音堂有、

大師御作也、

こやすの地藏堂有、

天野村、

下鳥井、

そり橋、 宮 左二 右二 むま所、

中鳥井、 正一位勲八等

丹生大神、

籠門、 前右手二能ふたいかつや有、

上鳥井、

天野四社大明神、 御しんたい高野

大明神と同事、

左ゑんの行者堂、 ツゝき二長床堂、

同 大明神御本寺、 さんなう堂、

御しんたい、 こんかうかい大日、

たいそうかい大日、

千手くわんおん、

弁才天、

ゑひす、 小宮、

きやうしやう上人、 中宮、

大師経堂、

左手おくのかたニかうめうしんこん

ほり申候石とう、

大師堂、

次二二重のたう、 大日、

「(第八紙表)



九

次ニみこし堂、大日堂の次ニ

ふとう堂、

みこし堂、

かう神宮、鳥井あり、

坂の道はた右手ニ大師御つゑの跡石ニあり、

天野より坂の上へ上りて鳥井式ツならひて有、

右鳥井、正一位勲八等丹生大神かく有、

左鳥井、正式位勲八等高西大神

けさかけ石、同、

ねち石、

おし上石、左手少坂ノ上、かしの木下ニ有、

大師御手のあと有、

七色のやとり木、道はたへおゝいけり、

鏡石左手ニ有、

大門下馬、

高野山口の院、

中門、二天王、

こんたう薬師、かり堂なり、

六角たう、侶六ツあり、

天野大明神二社、鳥井

高野 はい殿、

さい堂、大日五ち如来、南わき二佛二躰宛、

（第八紙裏）

くしやく堂、ほうおふくしやく二のり、

しやか堂、しやか如来、わき立四天王、

御ゑい堂、南むき、

前ニさんこの松、

後ニたから蔵、

前ニしゆるう堂、

大とう、大日、五ち如来、南わき二佛二躰宛、

愛染明王堂、

ゑとう、大日、

三まい堂、大日、

さいとう、大日、かうじんふとう、

千本まき、まきと杉と さしませ、

ふとう堂、此所ニ而女人宿致不申候、

へつしよ寺、

りつそう寺也、此前より熊野道、

さか道也、おだわら町よりふとう堂

前へ出、それより千本まきへ

見物致又ふとう堂へ帰

へつしよ寺へ参申道御座候、

高野山、おく乃院、

一橋、

二橋、左手ニすかたミの水有、

無妙橋、左手ニ水向の念佛ニ而

（第九紙表）

ちそうとふとうと有、

左手ニミろく石あり、

こうほう大師、御ひやう所、南面、

前二とうろう堂、大師の御もち

被成候みなすいしやうのじゆず有、

左二こつたう有、

右ニきやうたう有、石田治部少輔  
こんりうと申候、

右手ニ高野山、

此山のすそニ木ちきの座あり、

左手ニ天ぢく山、

御くう堂、

大こく堂、

ふとう堂、

右手ニたゝのまんちう石たう、

あつもり石たう、

くまかへ石たう、

七ツ石たう、

十おわり

諸國の大名衆石塔廿有、

廿五日

高野山、ゆ屋の谷泊り、

〔注〕「」は右傍注を、へゝは左傍注を、本文当該の位置に  
挿入したもの。

「（第九紙裏）

「（第十紙表）